

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～静岡県～

課題

小・中・高等学校で連携した「できる」授業への質的改善が十分に行われていない

具体的な取組

① 県内2地区において、小・中・高等学校の研修協力校を指定し、共通テーマに基づいた授業改善を行う。

- ・ 運営協議会(年2回):外部専門機関からの助言を得た地区における共通テーマの設定
- ・ 連携推進会議(年2回):小・中・高等学校で一貫した英語教育に資する検討会。共通テーマに基づいたCAN-DOリストの作成
- ・ 公開授業研修会(小・中学校各年1回, 高等学校年2回):共通テーマを踏まえたCAN-DOリストに基づいた授業実践及び協議会
- ・ 指導主事連絡協議会(年3回):小・中・高等学校を所管する外国語担当の指導主事(8人)による連携推進に資する協議会

・平成28・29年度:稲取地区(町立稲取小学校、町立稲取中学校、県立稲取高等学校) / 藤枝地区(市立青島小学校、市立青島東小学校、市立青島中学校、県立藤枝西高等学校、県立藤枝北高等学校)

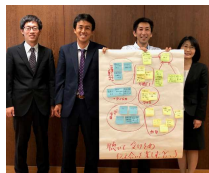
・平成30・31年度:富士宮地区(市立富丘小学校、市立富士宮第四中学校、県立富士宮西高等学校) / 森地区(町立飯田小学校、町立宮園小学校、町立旭が丘中学校、県立遠江総合高等学校)

② 「できる」授業への質的改善に向けて各校種において英語担当教員の指導力向上に係る研修を行う。

取組例1

地区の特性を踏まえた共通テーマの設定

外部専門機関からの助言を得ながら、地区ならではの児童生徒の特性を生かした英語授業改善に向けて、小・中・高等学校における一貫した英語教育を通して育みたい生徒像を共通テーマとして設定した。



【富士宮地区共通テーマ】
「聴いて受け止め、伝え合いを楽しむ宮っ子」

【森地区共通テーマ】:
「英語でのコミュニケーションを通して、楽しみながら人と関わり、伝え合える森町っ子」

取組例2

共通テーマに基づいたCAN-DOリストの作成

地区における共通テーマを具現化するために、学びの連続性を意識し、CEFRを参考としたCAN-DOリストを作成し、能力記述文に基づいた公開授業を実施した。(波及・周知:公開授業にて配布し異校種連携におけるCAN-DOリストの重要性を促した。)

(成果)小・中・高等学校を貫くCAN-DOリストの作成

	公開授業参加者数	公開授業参加校数
H29	599人	257校
H30*	465人	190校

(成果)校種を超えて多くの学校からの参加があり、実践成果の普及・周知を図ることができている。
(数字は延べ数。*H30は12月時点)

取組例3

指導力向上に係る研修

・ 「英語教育推進リーダー」の活用 (高等学校)
英語教育推進リーダー(LEEP)による公開授業等の実施

・ 小学校英語教科化対応研修 (小・中学校悉皆研修)

新学習指導要領における外国語教育についての理解を深め、指導方法や小中連携の意義について学ぶ。(波及・周知:小学校研修者は所属において伝達する。)

	そう思う	どちらかとも そう思う
満足度	66%	34%
目標達成度	65%	35%

今後の課題・方向性

- 教員の英語力、指導力の向上
 - ・ 県としての英語教育推進に係る施策及び研修計画の見直し
- CAN-DOリストの更なる活用及び改善
 - ・ CAN-DOリストの重要性に関する普及、啓発方法の改善

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～富士宮市立富丘小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- 〔課題〕 外国語活動を実践することに不安を感じている教員が多い。
 〔手立て〕 ・小中高の各研修協力校の教員が外国語の授業を通して育てたい子どもについて、語り合う時間を設定
 研修協力地区共通テーマ「聴いて受け止め 伝え合いを楽しむ宮っ子」
 ・共通テーマに基づいた授業改善

具体的取組の内容

①教師が英語を楽しむ「楽力」をつける週1回の校外外国語研修

- ・TTのやり取り練習‘Small Talk’
- ・ずっと英語だけを話す‘English Time’
- ・英語の歌を歌う
- ・指導法、アクティビティの紹介



②全校体制での外国語活動実践

- ・TTによる指導（1・2年の学級担任が参加）
- ・単元のゴールを明確にすることや、付けたい力を児童と共有することなど、単元の流れと1時間の授業の流れについて共通理解を図る

時期	研修の流れ
4月	校内研修（外国語活動の課題）
5月	校内研修（単元の共通理解）
6月	授業研究①
6月	校内研修（単元検討）
6月	校内研究協議会（授業研究②）
7月	授業研究③



③県内の小・中・高を対象にした公開授業研修会の実施

- ・授業公開（4年生、5年生各1学級）
- ・事後グループワーク
- ・赤沢真世准教授（大阪成蹊大学教育学部）による講演

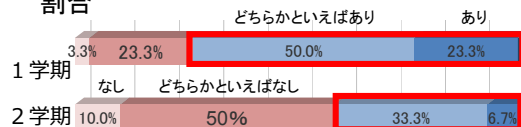
「小中であつなげる外国語教育の大切なポイント」



成果①

◎教員の外国語活動への意識が高まった

◇外国語活動の単元構想に対する抵抗感の割合



4月当初に比べると、単元構想に対する不安が少なくなっている

◇クラスルームイングリッシュを積極的に活用している教員の割合

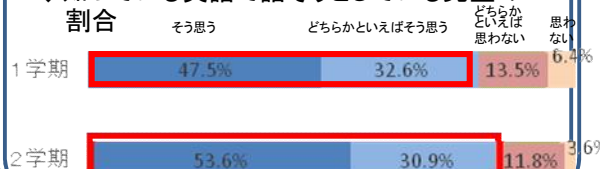
	していない	どちらかというとしていない	どちらかというとしている	積極的にしている
4月	36.7%	23.3%	33.3%	6.7%
11月	0.0%	10.0%	66.7%	23.3%

成果②

◎児童のコミュニケーション能力が向上した

- ・相手に伝わらないときはジェスチャーを使う
- ・他教科の発表の場面で、質問を取り入れて交流する

◇知っている英語で話そうとしている児童の割合



今後の課題・方向性

①単元構想の工夫

- ・教科横断的な単元構想
- ・児童がやってみたいと感じる単元構想
- ・児童が自然に何度も英語を使うことができる授業

②クラスルームイングリッシュの質の向上

- ・アクティビティの指示や教師対児童とのやりとりの際にどのように自然に英語を使っていくか

現状の課題と課題解決のための手立て

- 〔課題〕・「伝える」ではなく、「話す」で終わってしまう ・仲間の発言を傾聴する姿勢が足りない
 〔手立て〕・小中高の各研修協力校の教員が外国語の授業を通して育てたい子どもについて、語り合う時間を設定
 研修協力地区共通テーマ「聴いて受け止め 伝え合いを楽しむ宮っ子」
 ・共通テーマに基づいた授業改善

具体の取組の内容

①伝え合う活動を意識した授業

- ・より知りたい、話してみたい、書いてみたいと思えるような活動
- ・生徒のコミュニケーション量を増やすために、ペア、3～4人組の活動を積極的に設定
- ・質問する、感想を伝えるなどのリアクションの育成
- ・例やワークシートに記載されていない+αのアクティビティを生徒の実態に応じて設定
- ・チェックリストの活用(伝え合うための知識や意見を持っているか、伝え合う活動にふさわしい形態か、何を話し合うのかの内容がはっきりしているか、等)

②四中版パフォーマンス課題の設定

- (伝え合うためのパフォーマンス課題)
- ・生徒が興味をもって、互いに伝え合いたくなる課題
 - ・単元で学んだ知識・技能を使って解決していける課題
 - ・生活の中で生かせる課題



「ジャマイカ人大学生に日本を紹介しよう」



③県内の小・中・高を対象にした公開授業研修会の実施

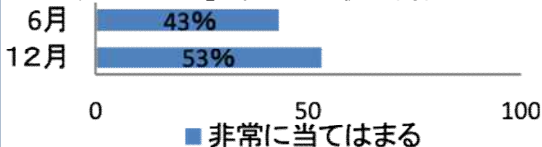
- ・授業公開(3年生1学級)
- ・事後グループワーク
- ・赤沢真世准教授(大阪成蹊大学教育学部)による講演「小学校英語教科化・中学校英語をつなぐ これからの授業づくりー発問・パフォーマンス課題を軸にー」



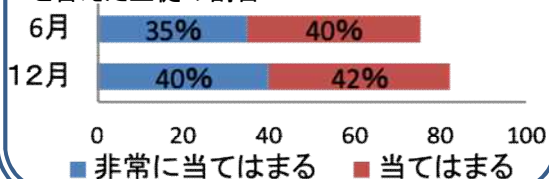
成果①

◎伝え合いを意識して英語学習に取り組む生徒が増えた

◇「英語を通じて、自分の考えや気持ちを伝えようとしている」と答えた生徒の割合



◇「英語を通じて、相手と関わろうとしている」と答えた生徒の割合

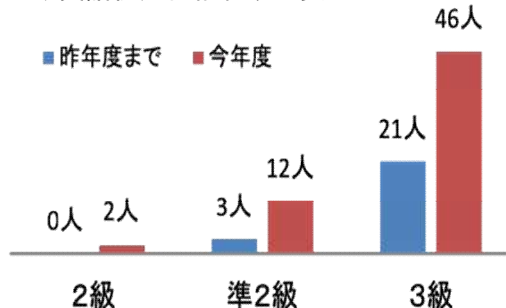


成果②

◎英語検定合格者の増加

- ・英語学習に対する意欲、英語力の向上
- ・3級以上の英語検定に合格した生徒 60人 (H29 約14% → H30 約34%)

◇英語検定合格者数の変化



今後の課題・方向性

①英語での即興的な伝え合いの力の育成

- ・共通の帯活動の設定

(例: 1 Minute Conversation)

②単元構想の中でのPDCAサイクルを実施

- ・1時間ごとの振り返りを生かした次時への授業改善

③CAN-DOリストの活用・修正

- ・CAN-DOリストを活用した指導・評価

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～森町立飯田小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- [課題]・外国語活動の授業づくりに自信がもてない教師が多い ・児童の外国語活動の楽しさが、ゲームの楽しさになっている
[手立て]・小中高の各研修協力校の教員が外国語の授業を通して育てたい子どもについて、語り合う時間を設定
研修協力地区共通テーマ「英語でのコミュニケーションを通し、楽しみながら人と関わり、伝え合える森町っ子」
・共通テーマに基づいた授業改善

具体の取組の内容

①教師のスキルアップ

- 学級担任がT1となり、自信をもって
楽しみながら指導
・教師のための英語ミニレッスン
・ALTとの打ち合わせの時間を設定



②ゴールアクティビティの明確化

- 教師も児童も目的意識をもち学習

慣れ親しみのための
効果的なアクティビティの吟味 など

必要な言語材料の洗い出し

ゴールアクティビティの設定

③県内の小・中・高を対象にした 公開授業研修会の実施

- ・授業公開(6年生1学級)
・事後グループワーク
・柴田里実准教授(常葉大学外国語学部)による講演
「これからの外国語活動・外国語教育
:小学校教員に求められること」



成果①

◆教員の変容◆

- ◎外国語活動の単元づくりや目指す子ども像についての共通理解が図られ、教師が前向きに授業づくりに取り組むようになった。
◎言語活動の設定が工夫され、児童同士の外国語でのコミュニケーションを促す手立てとなった。

(外国語活動の授業に関するアンケート、校内研修振り返りより)

成果②

◆児童の変容◆

- ◎目的意識をもたせた上での十分な言い慣れや聞き慣れにより、児童の外国語を聞く力や話す力が向上した。
◎児童が、慣れ親しんだ外国語を使って自分の思いを伝え合おうとする姿が見られるようになった。

(校内研修振り返り、公開授業アンケートより)

今後の課題・方向性

①必要感のあるアクティビティの設定

- ・意味理解が深まるアクティビティや場面の工夫
・児童の興味関心を高める仕掛け

②外国語活動の授業づくりに対する 教師の苦手意識や不安の解消

- ・スキルアップ研修の継続
・ALTとの積極的な対話と授業計画の打ち合わせ
・クラスルームイングリッシュの習得と使用改善

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～森町立宮園小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- 〔課題〕・外国語活動を指導することに対する不安感(教員) ・自分の思いを表現することに対して消極的(児童)
- 〔手立て〕・小中高の各研修協力校の教員が外国語の授業を通して育てたい子どもについて、語り合う時間を設定
- 研修協力地区共通テーマ「英語でのコミュニケーションを通し、楽しみながら人と関わり、伝え合える森町っ子」
- ・共通テーマに基づいた授業改善

具体の取組の内容

①校内研修で英語レッスン

- ・アクティビティやスモールトーク
- ・絵本の読み聞かせ
- ・3～6年の担任は、全員1回外国語活動の授業を公開



②ゴールの姿を明確にする

- ・教師も児童も目的意識をもち学習に取り組む。
- ・ゴールアクティビティから単元構想を考える。
- ・必要感のある場面設定を工夫する。

③校内授業研修会の実施

- ・授業公開(5年生1学級)
- ・事後協議
- ・柴田里実准教授(常葉大学外国語学部)による指導助言

※県内小・中・高に向けた公開授業研修会は平成31年度開催予定

成果①

◎教師の英語指導力・英語力の向上が見られた

- ・担任がT1で授業を組み立て、自分の思いをもって授業に臨むようになった。
- ・クラスルームイングリッシュを積極的に使い授業を行うようになった。
- ・目的に合うゲームやアクティビティを工夫した。

成果①②については、教員及び児童(3～6年生)を対象に行ったアンケート結果(5月、12月実施)による。

成果②

◎目的意識をもった活動を設定し、児童が意欲的に授業に参加するようになった

- ・子供が英語を使って、自分の思いを伝えようとしている姿が増えた。
- ・できるだけ多くの伝え合う活動を取り入れて授業を行うようになった。

今後の課題・方向性

①必要感のあるコミュニケーション場面設定

- ・児童が伝えたいという思いをもった言語活動の充実

②よりよいコミュニケーションのための手立て

- ・意味のあるコミュニケーション(伝える内容を豊かにしていく)
- ・相手意識をもって話す、聞くための手立て
- ・振り返りの工夫(認める場、学びを実感する場の設定)

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～森町立旭が丘中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

〔課題〕 コミュニケーション活動の在り方と指導方法

- 〔手立て〕・小中高の各研修協力校の教員が外国語の授業を通して育てたい子どもについて、語り合う時間を設定
研修協力地区共通テーマ「英語でのコミュニケーションを通し、楽しみながら人と関わり、伝え合える森町っ子」
・共通テーマに基づいた授業改善

具体の取組の内容

①メンターグループによる授業見学・協議

- ・単元に1回は「学び合い」の場面設定
- ・参観授業と「学び合い」場面の位置付け、効果の検証
- ・英語科指導案について他教科担当からの意見をもらう。

②Authenticを意識した授業の工夫

- ・帯活動として、毎時間、対話活動を全学年行う。(話す) ※1学期より
- ・帯活動で行った対話活動を英語で書き出す。添削後→家庭学習(書く) ※2学期より
- ・困ったときに使える表現集の活用
- ・「初めて聞く新鮮さ」があった活動かどうかを振り返る。
- ・英語、ジェスチャーの意味、機能、使用場面について適切であったか振り返り、ALTとも確認をする。

③県内の小・中・高を対象にした公開授業研修会の実施

- ・授業公開(3年生1学級)
- ・事後グループワーク
- ・柴田里実准教授(常葉大学外国語学部)による講演「Audience and Authenticity:生徒と共に成長する教師」



成果①

年度当初の生徒の思い

○「書く力」をつけたい

毎時間の帯活動で対話活動の後、2分間で書き出す。教員の添削後、家庭学習で振り返る。→これを2～3回繰り返す。
※生徒アンケート結果から2、3年で2学期より実施(結果)

- ・「書く」ことへの苦手意識は依然として横ばい状態。理由として、対話活動を通し、即時的な英語力やスピーチ力向上を目指し、重点的に扱ったため、生徒は「書く力」よりも「やりとり」力へと意識が変化したのではないかと考える。
- ・「書く」力の向上に向け、帯活動として継続的に「話す」から「書く」を扱っていく。

成果②

年度当初の生徒の思い

○スピーチ力をつけたい

テーマを決めて1人1分間のショートスピーチ、もしくは対話活動を帯活動として毎時間行う。
※生徒アンケート結果より1学期から全学年で実施(結果)

- ・対話活動でのプラス1文やリアクション、そして聞く力に改善が見られた。また、発表に対する苦手意識が低くなり、やりとりの向上を意識する生徒が増えた。
- ・やりとりの質や即時的な会話力の向上を目指す生徒が増えた。そのため、聞く力とやりとりを課題とする声も出始めた。

今後の課題・方向性

①教科書の単元とCAN-DOリストをつなげた単元構想づくり

- ・GAの姿を明確にし、つけたい力(CAN-DO)と教科書とのつながりをもたせた単元を計画する。
- ・帯活動の中で教科書の内容を取り入れていく。

②基礎・基本の定着

- ・つけたい力を明確にし、帯活動、家庭学習とつながりをもたせていく。「話す」から「書く」
- ・4技能をバランスよく扱い、ITを生かす。

③小・中・高の接続を意識した授業づくり

- ・学区内の小学校、近隣の高校の情報収集を行う。
- ・使用している教科書、ICT活用について知る。

学校研究テーマ

社会的な話題(課題)について論理的に意見を述べ合う生徒を育成するためのgoal-directed activity

現状の課題と課題解決のための手立て

自分の意見を伝えることはできても、なぜそう思うのか論理的に考えて発言したり、書いたりすることは苦手である。そのため、身近な話題を数多く取り入れながら自分の意見を論理的に表現する練習を繰り返すことにより、社会的な話題においても論理的に意見を述べ合うことができるようにする。

具体の取組の内容

- 取組内容① スモールトーク①→ 授業の始めに提示された話題についてその場で自分の考えをパートナーと口頭で言い合う。意見を即時的に表現する力をつける。(ペアワークまたはグループワーク)
- 取組内容② スモールトーク②→ 相手の発言内容に対して論理的な理由を添えて自分の意見を即時的に言う力をつける。言われた方はさらにそれに対して意見と理由を言うことにより、会話が往復するようにする。(ペアワークまたはグループワーク)
- 取組内容③ 論理的な思考に基づいて英文を書く力をつける。→ Web MapやParagraph Planner を使用して自分の考えをまとめ、論理性を持った英文を書く練習をする。(ソロワーク)
- 取組内容④ 多角的な思考を育成する。→ クラスメイトの作文を読み、それに対して賛成と反対の両方の視点から自分の意見を言い、英文にまとめる。(ペアワークまたはグループワーク)



成果①

- ・スモールトークを継続することでクラス全体に意見を言いやすい雰囲気が出た。
- ・箇条書きにした自分の意見を表し、それを基に英語で発表する意欲を見せる生徒が増えつつある。

アンケートにおいて「与えられた話題について、即興で話す活動をしていた」と答えた生徒の割合(1, 2年生150名)

	できた	まあできた	あまりできなかった	できなかった
H30 1学期末	22.7%	23.3%	46.0%	8.0%
H30 2学期末	19.3%	34.7%	38.0%	8.0%

成果②

- ・前後のつながりを意識しながら英文を書こうとする生徒が増えた。
- ・1つの話題に対して自分と異なる意見とその理由、または同じ意見でも異なる理由を聞いたり読んだりする活動を通して、物事を多角的に見る必要性とおもしろさに気付く生徒が増えた。

今後の課題・方向性

- ・さらに明確なルーブリックを示し、話す際に意識すべきことを生徒に十分把握させたうえでスモールトークを継続し、生徒の英語の質を上げる。
- ・与えられた話題について、自分とは異なる意見とその理由も意識、想定したうえで、説得力ある自分の意見文を書く練習をする。
- ・ALTを含めた英語教員全員で生徒に身に付けさせたい英語力とそのための方針について研究を進め、CAN-DOリストの改善を図る。

学校研究テーマ

身近な話題について英語で積極的に表現し、伝え合うことを楽しむためのsmall taskの設定

課題

【生徒】

- ・ 日本語では自発的に思考したり、発表したりすることができても、英語で考えたり、表現したりすることについては、思考が止まったり、発言や発表をためらってしまう。
- ・ 英語である程度の分量のまとまりのある内容を発話しようとするとき、語彙が少なく、伝えようとする内容の厚みが欠けてしまう。

【教師】

- ・ 生徒の発話を促す手法や、タスクの設定の仕方や種類が少なく、適切な支援ができていない。
- ・ 「わかる」から「できる」ための授業への質的変換ができていない。教師が教えなければならないという発想から脱却できずに、生徒に役割や責任を与え、役割を全うさせながら自己有用感を高めさせるような授業になっていない。

取組①

【帯活動、Warm-upの工夫】

授業の冒頭でのsmall conversation, snake formation, picture descriptionなどを繰り返すことで、英語で対話することに対するハードルを下げ、物おじせずに発話する姿勢の定着を図る。

取組②

【グループワークやペアワークの工夫】

教師主導の授業とならないよう、教師の発話をできるだけ少なくし、ペアやグループワークを中心とした授業への転換を図る。グループワークでは役割を明確化させ、役割を果たすことで達成することができるタスクを豊富に設定し、活動の質を上げる。(leader, reporter, note-taker 等)

取組③

【ワークシートの工夫】

1枚ポートフォリオの形式を取り入れるなど、ワークシートを通じて、生徒が「はじめはできなかったができるようになった」という学びの成長を実感できるような工夫を行い、生徒の達成感を促す。

成果

英語学習に関するアンケート(1,2年生)

	そう 思わない	どちらか といえば 思わない	どちら でもない	どちらか といえば そう思う	そう思う
英語の授業にすすんで参加していますか	3.4%	7.7%	31.2%	32.9%	24.8%
英語を通じて、相手の考えや気持ちに耳を傾け理解しようとしていますか	3.4%	9.4%	30.5%	38.6%	18.1%

【生徒】

授業に積極的に参加している生徒の割合や、ペアやグループワークにて相手の発言をしっかり聞こうとしている生徒の割合が5割以上となった。

【教師】

1枚ポートフォリオ形式のハンドアウトやペアやグループワークを軸としたタスクデザイン及び授業設計の手法の実践を重ねることができた。

今後の課題・方向性

中学時代より英語に対する苦手意識を持つ生徒が多く、「英語の授業が好き」と答えている生徒の割合が46%にとどまっている。そのため、以下の2点について重点的に取り組む。

- ・ 生徒が「できる」を実感できる授業改善
- ・ CAN-DOリストの改善及び教師の支援の質的改善